
短編日和

明日香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編日和

【Nコード】

N8780K

【作者名】

明日香

【あらすじ】

第1話は太子と妹子の出会いの話。

ちなみに2話から話を繋げない予定です。

短編集……みたいな？

始まり（前書き）

シヨボいうえに原作を知らない方には理解できないかもしれません。
それでもおk？

始まり

「妹子。」

「何ですか？お父様。」

「聖徳太子という人物を知っているか？」

「聖徳・・・太子？」

「ああ、なんでも生まれてすぐに喋れるようになったり、十人の話を一度に聞いたり、空を飛べるとまでいわれているお前と年が近いのにとてもすごいお方なんだ。」

小さいころからよく聞かされた聖徳太子のこと。

すごい人。

頭が良い。

神童。

周りの人からいろいろなことを聞いた。

『聖徳太子』は僕の憧れになった。

僕も聖徳太子みたいにすごい人になって、沢山の人を幸せにしたい――。

話を聞く度に、「どんな人だろう、会ってみたい」

そんな風に思った。

そして――

「太子、遣隋使に任命された小野妹子が面会したいそうです。」

「よし、入ってこい。」

ついに『聖徳太子』に会えるんだ。
胸が高鳴る。

「失礼します。」

ああ、今、憧れの人が目の前に――！！！！？
目の前にいたのは昼間っからジャージでくつろいでいるオッサンだった。

「君が遣隋使に任命された芋か。」

「芋じゃねえ！！小野妹子ですっ！！」

「そう怒るなって。私は聖徳太子だ。よろしくな。」

「――！！！！！！？」

コイツが……

聖徳太子い！！！！！！？？

「ん？どうした、妹子。」

僕の憧れが……こんな臭くてジャージのアホなオッサンだなんて・
……

しかも隋に、ジャージを着てけだって！？

冗談じゃない！！

僕まで変人扱いされちゃうだろうが！！

「そうだ、太子。お前も隋に行きたがってたな。一緒に行ってきたらどうだ。」

馬子様、まさかの提案!!

こんな臭くてアホなオッサンと一緒に隋へ!?

冗談じゃない!!

でも、僕が決められることじゃないしな……。

はぁ……、気が重い。

結局一緒に行くことになってしまった。

第一印象、最悪。

臭い。

ウザい。

キモい。

アホ。

こんなオッサンと遣隋使の旅に行くことになってしまったけど、一体どうなるんだか。

不安だらけだが、行かないわけにはいかない。

父や母の期待も背負っている。

太子を信じてやってみるしかない。隋から沢山のことを学び、倭国へ持ち帰る。

この旅を、このチャンスが無駄にはしない。

太子から貰ったこのジャージに誓った。

「このジャージ、袖がないんだけど……。」

なにはともあれ太子との不安だらけの旅は始まった。

始まり（後書き）

ここまで見てくださった方、ありがとうございます！！

時間があればどんどん書きたいと思います。

また桜日和の方もよろしくお願いします。

また機会があれば別のジャンル（ボカロ・銀魂・リボーンなど）の
も書いてみたいです。

ちなみに私はボカロはレン君派。

そしてなぜかヒバリさんが曾良君に見える・・・。

卒業式／妹太（前書き）

急に学パロです。

話は繋がってません。

てゆうかコレ去年の卒業式の朝に書いたものなのでいつも以上に駄文。

ok？

卒業式／妹太

日和中学の校庭にある桜が満開に咲いている。

今日は卒業式。

といっても僕のじゃないけど……。

今日の主役は太子たちだ。

太子と出会ったのは今年の春。

入学式に生徒会会長としてスピーチをしたのが太子だった。

あんまり関わりたくなかったのになぜか気に入られてしまい生徒会に無理やり入らされてしまったんだ。

あれからいろいろなことに巻き込まれて大変だったな……。

でもやっと太子から解放される……！！

うるさい奴がいなくなつてせいせいする！！

だいたいアイツはいつも人を巻き込んで！！

運動会も文化祭も温泉旅行も……！！

太子といると全部めちゃくちゃにされて……！！

……。

……でも……楽しかったな。

運動会も文化祭も温泉旅行も太子といった中学校生活……全部楽しかった。

「上宮太子。」

「はい。」

卒業証書を頂いた太子はなんだか大人っぽく見えて少し寂しくなった。

「次は生徒会会長のスピーチです。」

太子のスピーチが始まった。

太子は普段はアホだけどこういう時だけはすごいんだよな……。
……。これでお別れ……。か。あれ……。、どうしてだ
ろう……。

消えてほしいって思ってたのに、なんでこんなに寂しいの？

「妹子、こんなめっちゃかな私に最後まで付き合ってくれてありがとな!!」

太子が言った言葉。

頭の中に太子との思い出が巡る。

涙がこぼれた。

どうしてこんなに悲しいの？

涙が止まらない。

その時太子が舞台からおりて僕のところへきた。
会場がざわめく。

「ちよっ……。太子!なにやってるんですか!?!」

「お前に渡すものがあるからさ。」

「えっ……。?」

「ほれ!!」

太子に渡されたのは四つ葉のクローバーだった。

「これ……」

「私は妹子と過ごした一年間、とっても楽しかった。だからそのお礼だ!!」

「……太子。」

「きつとまた会える。だから……泣くな。今ぐらいは笑え!!」

太子は涙を必死にこらえ笑ったぐちゃぐちゃな顔で僕に言った。

太子、一年間ありがとうございます。

僕もあなたと過ごした日々とても楽しかったです。

僕は心からそう思えた。

こうして卒業式が終わった。

こんなめっちゃくちゃな卒業式初めてだよ……。

でも太子らしいな……。

最後までたくさんの人を巻き込んで……。

でもきつと太子は誰よりもみんなの笑顔を……、みんなの幸せを望んでいるんだ。

あなたがいたから僕は幸せだった。

あなたに出会えた事が僕の宝物。

きつとあなたのくれたクローバーがまた僕らを引き合わせてくれるだろう。

いつの日かまた笑いあえる日を願って・・・。

卒業式／妹太（後書き）

読んでくださりありがとうございました。
次回こそ細道を書きたいと思っています。
できるかな・・・。

最終回だよ!! 全員集合! 日和キャラナンバーワン決定戦!! その1 (前書き)

結局細道オンリーじゃなかった・・・。

だって最終回は盛り上がらないとゞ (^ ▽ ^) ノ

→

言い訳

ではどーぞ↓

最終回だよ!!! 全員集合! 日和キャラナンバーワン決定戦!!! その1

太「突然だが……」

短編日和はこの話で最終回だ。」

妹「えっ、ちよっ……太子、なに言ってんですか!?!」

太「だから、短編日和はこれで最終回だって。」

妹「えええええ!!! なんてこんな急に……!?!」

太「なんか、作者が『短編集にすんのなんかめんどい』とか言ってる……」

妹「作者いい加減だな……。自分で始めたくせに。」

太「これが作者の性格だ。わかってやれ。」

妹「はあ。」

太「んで今回は最終回ってことで、『最終回だよ、全員集合!!! 日和キャラナンバーワン決定戦!』をやろうと思う。」

~~~~~

太「って訳でみんなを呼んだんだ。」





太「無限に広がる大宇宙！このスーパーイケメン摂政聖徳太子に清き一票入れてくれ！みんなの愛を待ってるぞ！！」

作「エントリーナンバー2・小野妹子~~~~！！」

妹「小野妹子です。よろしく願いします。僕に票を入れてくれたら嬉しいです。」

作「エントリーナンバー3・松尾芭蕉~~~~！！」

芭「松尾芭蕉だよ！よろしくねっ♪みんな、私に票を入れてね！」

作「エントリーナンバー4・河合曾良~~~~！！」

曾「河合曾良です。皆さん、絶対に票を僕にいらしてください。でないと……断罪ですよ？（ニヤリ）」

作「（怖っ！！）つ、続いてはエントリーナンバー5・閻魔大王~~~~！！」

閻「いっえ~~~~い♪♪スーパーセクシー閻魔だよ♪ぜひオレに一票を入れてネ★」

作「エントリーナンバー6・鬼男~~~~！！」

鬼「鬼男です。よければ僕に一票入れて貰えると嬉しいです。」

作「そしてーその他！」

ハヒュ家半平入「その他あああああ！？」

入「ちよっ……それはあまりにもひどすぎるんじゃないか!?!」

ハ「インパクトがなさすぎるぞ!」

作「えーそれでは……」

ハヒュ家半平入「スルー!?!」

作「では第一回戦を始めます!」

み『おお……!』

作「第一回戦は……」

かつこよさ対決!?!?!」

ついに始まった『日和キャラナンバーワン決定戦!』  
はたして優勝するのは誰か!?

《続く》

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8780k/>

---

短編日和

2010年10月11日08時32分発行